

令和 8 年熊本地震 非常災害対策本部会議（第 4 回）

議 事 次 第

日時：令和 8 年 7 月 31 日（金）17:20～

場所：官邸 4 階大会議室

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 開会 | 【内閣官房長官】 |
| 2. 地震の概要 | 【気象庁長官】 |
| 3. 被害状況等報告 | 【内閣危機管理監】 |
| 4. 各省庁の対応状況 | 【各省大臣等】 |
| 5. 非常災害対策本部長発言 | 【内閣総理大臣】 |
| 6. 閉会 | 【内閣官房長官】 |

令和8年熊本地震について（令和8年7月31日12時00分時点）

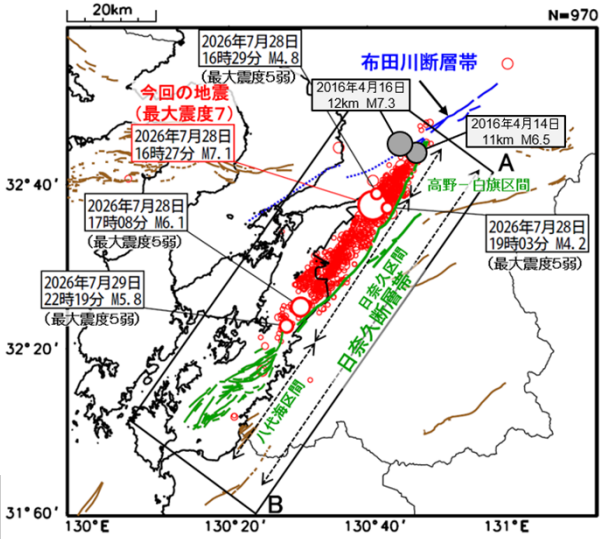
- 2026年（令和8年）7月28日16時27分頃に熊本県熊本地方の深さ16kmでマグニチュード7.1（暫定値）の地震が発生し、熊本県宇城市（うきし）及び氷川町（ひかわちょう）で震度7を観測。また、熊本県熊本地方で長周期地震動階級4を観測。
- この地域では過去に、大地震発生から1週間程度の間と同程度の地震が続発した事例があることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度7程度の地震に注意が必要。今回の地震活動は、現時点でも依然として活発な状況。
- 今回の地震活動域は広範囲に広がっており、地震が発生する場所や規模によってはM7.1の地震による揺れよりも強く揺れる場合がある。また、海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意が必要。
- 今回の地震発生以降、7月31日12時00分現在、この地震による地震活動域で、震度1以上を観測した地震が294回発生（震度7：1回、震度5弱：4回、震度4：15回、震度3：40回、震度2：86回、震度1：148回）。

※気象庁は、この地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動の名称を「令和8年熊本地震」と定めた。

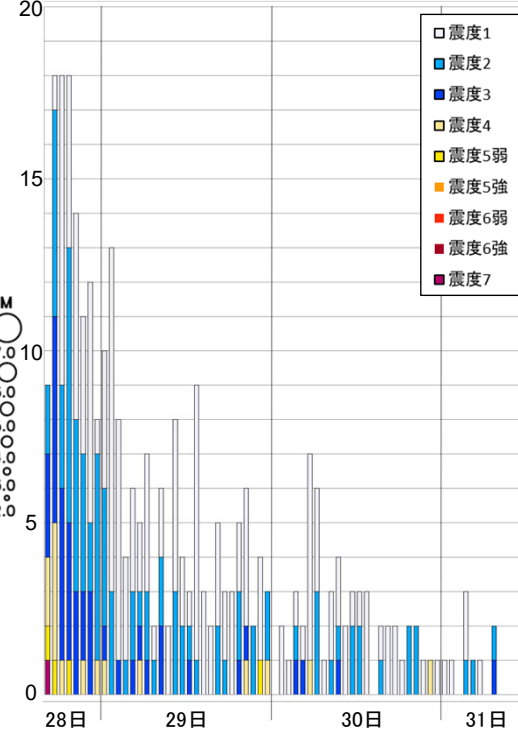
■ 震度分布図



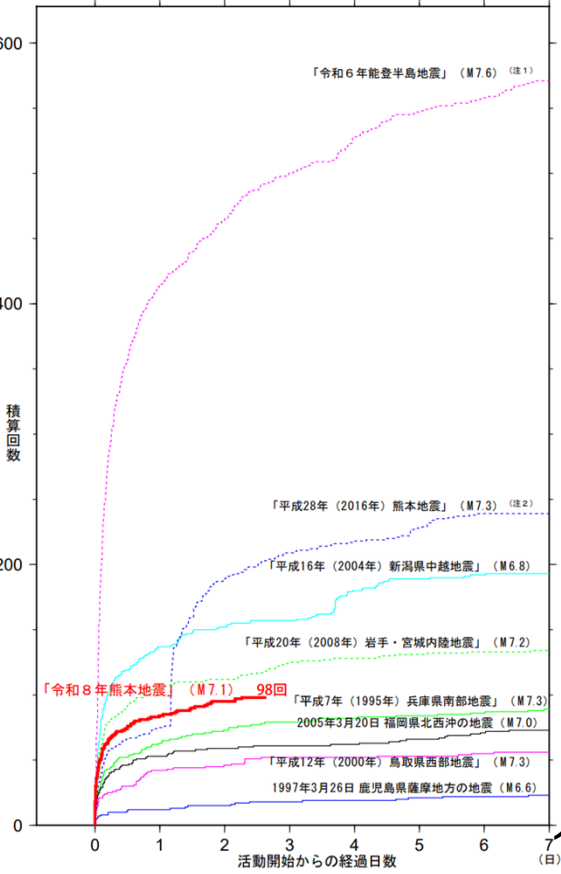
■ 震央分布図



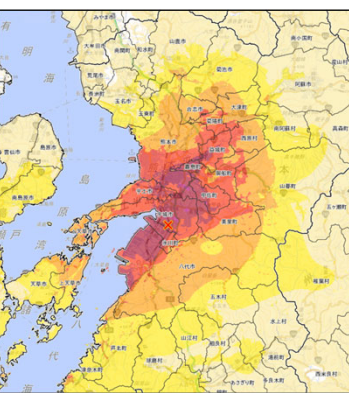
■ 震度1以上の地震回数グラフ



■ 主な地震活動との回数比較
(マグニチュード3.5以上) 7/31 08時現在



■ 推計震度分布図



■ 震度1以上の地震回数
(2026年7月31日12時00分現在)

震度	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	合計
回数	148	86	40	15	4	0	0	0	1	294

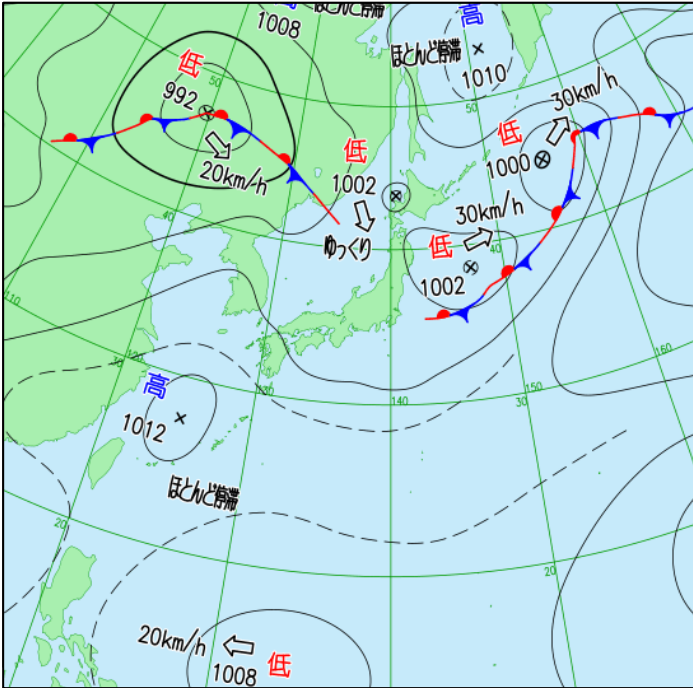
※掲載している地震回数は速報値であり、後日の調査で変更になることがあります。

熊本県の今後の気象の見通しについて

■今後の気象の見通し

- 31日(金)から8月5日(水)にかけて高気圧に覆われて概ね晴れの天気となる。
- 6日(木)や7日(金)は、湿った空気の影響で曇りや雨となる。
- 向こう一週間、最高気温が35度以上の日が続く。危険な暑さがしばらく続くため、熱中症などの健康管理に注意。
- 台風第13号(ドルフィン)は、猛烈な勢力で南鳥島近海を進み、来週は日本付近に影響する可能性がある。今後の台風情報に十分留意。

■実況天気図[7月31日09時]

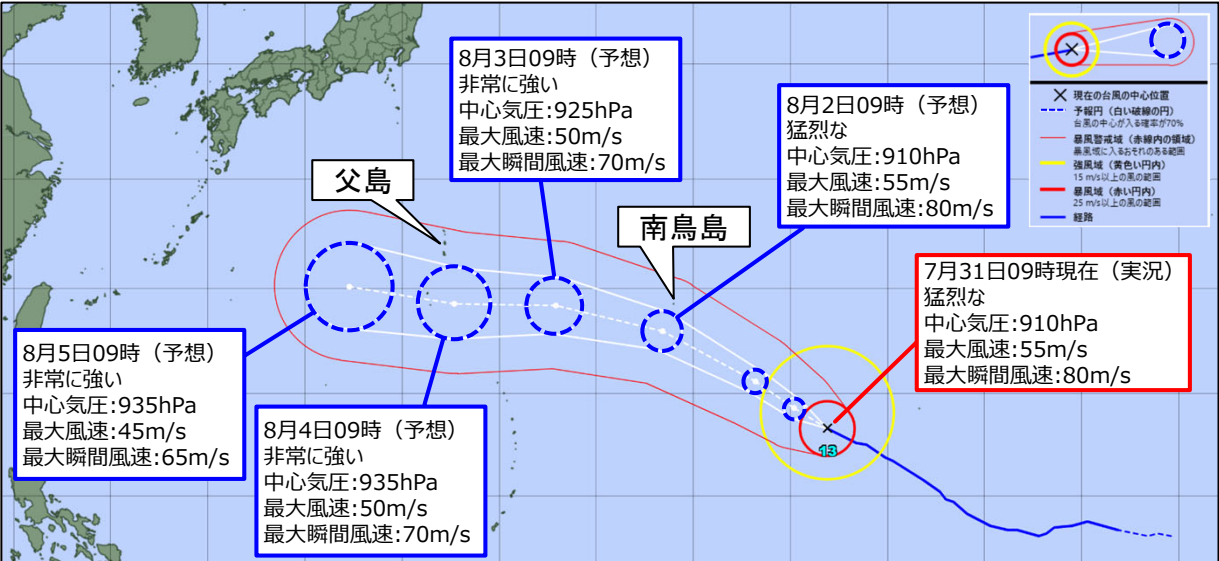


(※) 今回の地震による地盤の緩みを考慮し、熊本県、長崎県及び鹿児島県の揺れの大きかった地域について、土砂災害の警報・注意報等の発表基準を引き下げて運用している。

■熊本県週間天気予報(8月7日まで)[7月31日11時]

日付	今日 31日(金)	明日 01日(土)	明後日 02日(日)	03日(月)	04日(火)	05日(水)	06日(木)	07日(金)
熊本県	晴	晴	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	曇時々晴	曇	曇一時雨
降水確率(%)	-/-/0/0	0/0/0/0	10	20	20	30	40	50
信頼度	-	-	-	A	B	A	B	C
熊本 気温 (°C)	最高	36	36	39 (38~41)	40 (39~42)	39 (37~42)	39 (37~42)	37 (36~42)
	最低	-	26	28 (25~29)	27 (25~29)	28 (26~30)	27 (25~29)	29 (27~31)

■台風情報(台風第13号)[7月31日09時]



台風第13号の熊本県への影響

【台風第13号の予報及びその後の見込み】

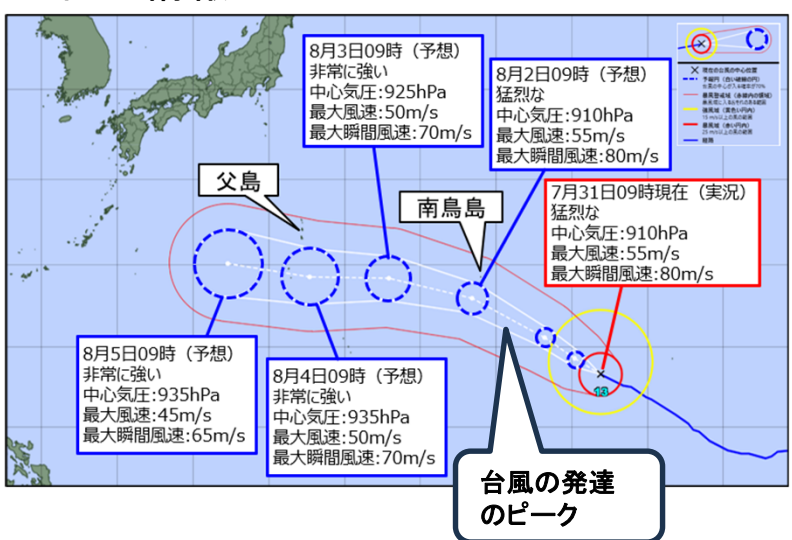
- 8月3日(月)にかけて猛烈な勢力で南鳥島近海を進み、5日(水)にかけて非常に強い勢力で小笠原近海から日本の南に進む。
- 5日(水)以降は、現時点では台風は九州に上陸せず、勢力を維持して沖縄・奄美を進む可能性が高い。

【熊本県への影響】(台風が勢力を維持して沖縄・奄美を進んだ場合)

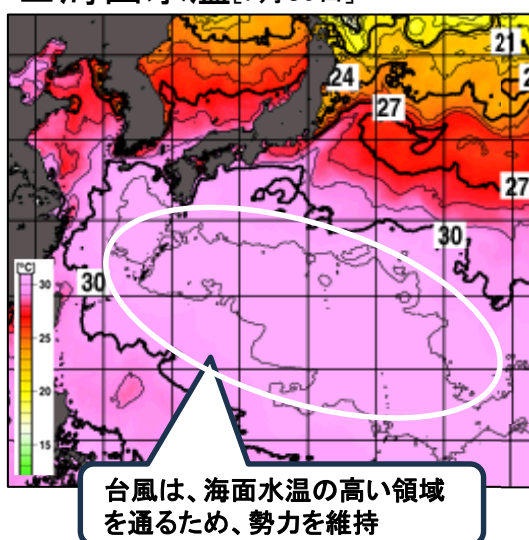
- ① 湿った東～南東風により、雨雲が太平洋側から九州山地を超えて流れ込んで雨が降ることにより、地震で地盤が緩んでいる地域での土砂災害
- ② 南東～東風による九州山地風下のフェーン現象による顕著な高温
- ③ 台風の影響による強風や高波

といった顕著な現象や災害の発生が考えられる。最新の防災気象情報にご留意ください。

■ 台風情報(台風第13号)[7月31日09時]



■ 海面水温[7月30日]



■ 台風が沖縄・奄美に進んだ場合の起こりうる現象のイメージ

